

## 木工藝見学会

開催日 2013年2月3日(日)午後3時～6時

東京都練馬区美術館

参加者 19名(谷 田島 小松 岡村 他 15名)

報告者 小松 稔

人間国宝 大坂弘道展「正倉院から甦った珠玉の木工芸」を見学しました。見学と同時に大坂先生ご本人から会場で各作品について解説をお聞きしました。その後、美術館の研修室に会場を移し、さらに詳しく先生のお話をお聞きしました。全国各地から多数の参加がありましたが、信州木工会からは谷さんも含めて4名の参加でした。

人間国宝とは正式には「重要無形文化財保持者」といいます。演劇、音楽、工芸の分野において歴史上または芸術上価値の高い無形文化財の中で、特に芸能、工芸等の技術を高度に体得していて体現する人が文化庁から認定されて人間国宝となります。大坂先生は木工芸の分野では6番目の認定者です。ちなみに現在まで木工芸では9人の方が認定を受けています。人間国宝に指定された方の作品は見る機会があっても、ご本人から作品の解説やお話が聞ける機会はそうあるものではありません。大坂先生がこと細かく丁寧に一つ一つの作品の解説をして下さるのですが、お聞きしながら緻密で繊細な技術の先にある美しさに圧倒され感動の連続でした。すべての作品が、わずかばかりの私の木工の技術や知識だけでは到底理解しがたい次元の作品でした。

大坂先生は東京学芸大学美術科を卒業されてから中学校の先生を務めながら木工製作を独学され、34歳頃から木工芸家に師事し様々な加飾法を復元、考案し作品を作られている異色の経歴の持ち主です。お会いする前は人間国宝に指定されている方とゆうことでとても近づきたい方ではないかと思っていましたが、ごくごく普通の方で、作品を作る技術は相当ご苦労されて体得されたと思いますが、こと細かくご自分の作品の製作過程を説明して下さったり、質問にもとても丁寧に答え下さるお人柄にもとても驚きました。色々とお話をお聞きしましたが、私たちの生業とする木工とは少し違う世界とはいえ、例えば三次元の曲面に象嵌する方法とか、透かし彫りの実際のやり方など限りなく興味が尽きない勉強会でした。このような機会に恵まれたことを感謝しています。